

草津 食べ物巡り

人間科学科3年 小山 佳恵

Iはじめに

1) 草津食べ物巡りについて

私は地理ゼミナールに所属している。このゼミナールは巡検に参加することと卒業研究を履修することがゼミナールの参加条件である。周りからはよく真面目なゼミだねといった言葉や、大変そうだねという言葉をかけられるが、周りが思うほどではない。むしろゼミメンバーが最高にナイスであり、息子さんへの溺愛っぷりが素敵な平井誠准教授と3年生で唯一の男子であるモッティは、家電芸人並みの豊富な家電知識を持っている。このようにみんなそれぞれとてもキャラが濃く、そんなメンバー達と楽しみながらゼミを運営している。しかし、報告担当の週はひたすらパソコンとにらめっこし、睡眠不足でフラフラだ。なんとも学生らしい。そんな平井ゼミであるが、やるべきやる精神

で今年の夏も巡検に行って参りました。行く先は群馬県草津町である。

草津町で巡検を行なうにあたり、私は土地利用の年代別にみた変化と建物の階ごとの使用目的について調査することが目的だった。当初の予定では真面目に調査を行い、予定通りに巡検を終えるはずであった。しかし、思いがけない誘惑が小山佳恵を待ち受けていた!! それは観光地特有の食べ物である。今回は、巡検中の休憩をほとんど食べ物巡りに費やした私の記録を載せていこうと思う。

2) 草津の概要

草津町は北西部に位置し、東西9 km、南北8 km、総面積は、49・7 km²総面北と西には三国山脈の2000 m級の山々がそびえ、一方、東と南は海拔約1200 mの高原となつて開けている。また本町は日本列島のほぼ中央に位置し

ている(草津町役場ホームページ)。観光地として名高い草津町は、温泉を観光資源とし、年間を通して観光客が多く訪れる(表1)。総入浴済み客数の年代別推移からみても劇的な変化は見られない(表2)。

草津町は温泉で有名であるが、そもそも温泉はどのように定義づけられるのだろうか。また、なぜ温泉によって草津が観光地として成り立っているかと断言できるのだろうか。1948年(昭和23)年に制定された「温泉法」では、温泉とは「地中から湧出する温水、鉱水および水蒸気その他のガス(炭化水素を主成分とする天然ガスを除く)で、別表に掲げる温度または物質を有するものをいう。」と定義し、別表には①温泉源から採取されるときに温度が摂氏25度以上、②含有物質が別表に示す19のうちどれかひとつでもあるもの」とあり、温度か含有物質

のいずれかひとつを満足すれば、これを温泉ということにしたのである（日本温泉協会2004、山村順次「近年における温泉と温泉地をめぐる諸問題」2006）。草津という温泉といわれる由縁は、草津が日本三名泉のひとつであり、泉質が日本有数の酸性度で、PH値は2・1（湯畑源泉）で雑菌などの消毒作用は抜群である（草津温泉観光協会ホームページ）。草津は元々、湯治場として人々の疲れや病気を癒してきた。そのような湯治場が観光地へと発展し、現在の草津町が形成された。

II 草津の食べ物巡り

1) 一日目 8月25日

横浜から草津町に到着したのは8月25日の午後だった。私は翌日から本格的に調査に取り組み予定だったため、まずは図書館で古いゼンリン地図をコピーさせていただくなどの下準備と湯畑周辺の下見を行った。下見の途中、匂いにさらされて思わず串焼きを購入した。しかも牛タンの串焼きである。なぜ草津で牛タンなのか。草津とどのような関連があるのかは謎だ。

2) 二日目 8月26日

午前中からゼンリン地図を片手に調査スタート。湯畑を中心に土地利用や建物の利用につい

て調べるが思いがけない誘惑が待ち構えていた。お土産屋で待ち構えるそれらはとてもいい匂いを放ち、食べてくれといわんばかりに見つめてくる。これはもう食べるしかない。思い立ったが吉日。さっそく購入しました。購入したものは「味噌まんじゅう」という名称で、おまんじゅうらしくないふわふわとしたホットケーキのような生地に甘辛い味噌が塗られ焼かれた甘味だった。味は予想と違った中身に驚きま

したが、思いのほかおいしいと感じた。次に食べたものは「温泉卵ソフトクリーム」だ。温泉卵を原材料に使用したソフトクリームらしい。とにかく味が気になってしまふところだ。チャレンジヤー小山、食べてみました。このソフトクリームもお土産屋さんの出店で購入した。味はソフトクリームにほんのり卵の味がするとうような味だった。次の食べ物はお昼ごはんを食べた500円定食である。観光地で提供されているものは食べ物も飲み物もお土産も大体の値段が高めに設定してある場合が多い。しかし、私たちがランチに選んだお店はワンコインでランチが食べられるという安さを売りにしていた。私が頼んだのはエビフライ定食だ。お味噌汁、ご飯、サラダ、海老フライがセットでこの価格とはすばらしい。味も素晴らしい。お財布

に優しいコストパフォーマンスに感動したのは良い思い出だ。次は「ぬれせんべい」を食べた。湯畑周辺のみならず、草津全体としておせんべい屋さんがいくつ也存在した。2、3店舗ほどおせんべい屋さんを見かけるとだんだんと食欲がでてくるものである。さっそくぬれせんべいを購入した。人生初のぬれせんべいの味はしょっぱく、せんべいを選べばよかったと後悔した。苦い思い出である。

3) 三日目 8月27日

三日目は二日目の調査の続きを行なうため主に湯畑周辺で行動していた。二日目にだいぶ食べつくしていたため、三日目ともなるとこのなにおいしかったか等のデータが頭にインプットされていることに気づく。食にどん欲とは女の子としていかなものか。しかし食べ物巡りはまだまだ続くのである。三日目はかねてから食べたいと思っていた「揚げまんじゅう」を食べた。この揚げまんじゅうは今回の食べ物巡りで一番の大ヒットだった。揚げたてあつあつ、そしてなかの餡子が主張しすぎないほどよい甘さで外はサクサク。草津の真骨頂、ここにあり。あまりのおいしさに思わず顔がほころぶ。帰りの電車でも揚げまんじゅうのおいしさを思い出しては、ほくそ笑む私は揚げまんじゅうの虜に

なってしまうようだ。次の食べ物は「はちみつソフトクリーム」だ。なぜはちみつなのだろうか。草津ははちみつが有名なのだろうか。たしかに山に囲まれているため蜂が多い。調査中も蜂が何匹も飛んでいることがあり、怖さから途中で動けなくなるといったこともあった。しかし、はちみつが有名というわけではないようだ。なぜなら、はちみつソフトクリームを売るお店は観光地を中心に全国展開しているお店だからだ。その土地の名物ではないものの、はちみつが好きという理由だけで購入。味は残念ながらあまりはちみつの味を感じることができなかった。

4 四日目 8月28日

最終日のこの日は調査でやり残したことがないか確認しながら調査対象区域を歩いていたため、食べ歩きをしている余裕あまりなかった。しかし、食にどん欲な私にも食べずに終わるはずがない。ラストを飾ったのは素朴なお菓子屋さんの「抹茶モンブラン」。このお店は夫婦で経営しているお店で昔ながらの外観がとても素敵なお店だ。味もおいしい。

皿観光地における「食」

三泊四日の巡検を通していくつかの食べ物を

食べた。名物もあればそうでないものも含まれている。湯畑周辺はお土産屋さんや飲食店が比較的多い。観光に来る人々の目的は「温泉」だが、飲食も観光地の楽しみのひとつといえるのではないだろうか。私にとって温泉という観光資源よりも、付加価値的要素である飲食店をいかに楽しむか、つまりお店の立地や種類に関して様々な角度から考察しつつも、おいしいものを食べ満足することが観光地の楽しみだと考えている。くれぐれも注意してほしいのは、今回の巡検は食べてばかりだったわけではないということだ。あくまで休憩中に食べ物巡りを行っていたのであり、調査を行なうことが今回の巡検の本来の目的である。

参考文献

草津温泉観光協会ホームページ 最終アクセス日 12月18日

ス日 12月18日

<http://www.kusatsu-onsen.ne.jp/>

近年における温泉と温泉地をめぐる諸問題、山村順次、2006

注

1 湯治場：湯治は温泉に入って療養すること。そうした療養する長期滞在の温泉宿が集団となつて集まっているところを湯治場という。